

放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート

テーマ③児童期の発達と遊び

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名 前】（ 花田 幸奈 ）

「ひま～」「何にもやることない～」が口ぐせの子どもたちに対して、悩む場面が多々あります。自分自身の遊びの引き出しがまだまだ足りず、もっと増やしていけたらなと思い、「児童期の発達と遊び」というテーマを受講しました。2名の講師の先生のお話を聞いたあと、グループワークを行いました。グループワークでは5名の指導員さんで交流をしましたが、外遊びがなかなかできず、室内遊びしかできないことに悩まれている指導員さんや、子どもが少なくなる時間帯の過ごし方について悩まれている指導員さんなど、遊びに関する悩みは尽きず、自分自身と共通する悩みも多くあることが知れました。

また、13種類の道具を組み合わせて、遊びを自由に考えるというグループワークを行いました。同じ道具でも、違う遊び方がたくさんあり、自分ひとりでは考えつかなかったような遊びが、ほかの方の発想としてはたくさん出てきていて、とても勉強になりました。「ひま～」という子どもたちに、「UNO やる？」「トランプやる？」と聞いてもなんだかパツとしないような表情をしていたり、「どっちでもいいよ～」と言われることも多々あります。そんなときに、今回のグループワークでみなさんが自由な発想で考えたような遊びができると子どもたちにとっては新鮮で、ワクワクするのかなと思います。子どもたちの「やってみたい！」という気持ちが芽生えるように、働きかけができるといいなと思います。初めの講義の中では、70年代と現代を比べた遊び方の変化を聞き、三間の減少以外にも、異学年同士の交流が少なくなっていることや、さらには放課後も学校と同じようなメンバーで遊ぶ子どもが増えていることを知り、学童保育が、異学年の交流ができる貴重な場所となっていることに気づかされました。

最近、様々な研修を受ける中で“ボーっとする時間も大切”といったお話をよく耳にします。学校で一日がんばって帰ってくる子どもたち、学童に帰ってきてめいっぱい遊んで帰りたい子もいれば、ゆったり本を読んだり、ゴロゴロしてすごしたい子、色々だと思えます。子どもたちと一緒に元氣いっぱい過ごす時間、疲れて帰ってきた子どもたちがリラックスできるように子どもとのんびり過ごす時間、それぞれを大切にしていきたいです。